



CQM(超短期経済予測モデル)

稲田義久(APIR 研究統括)

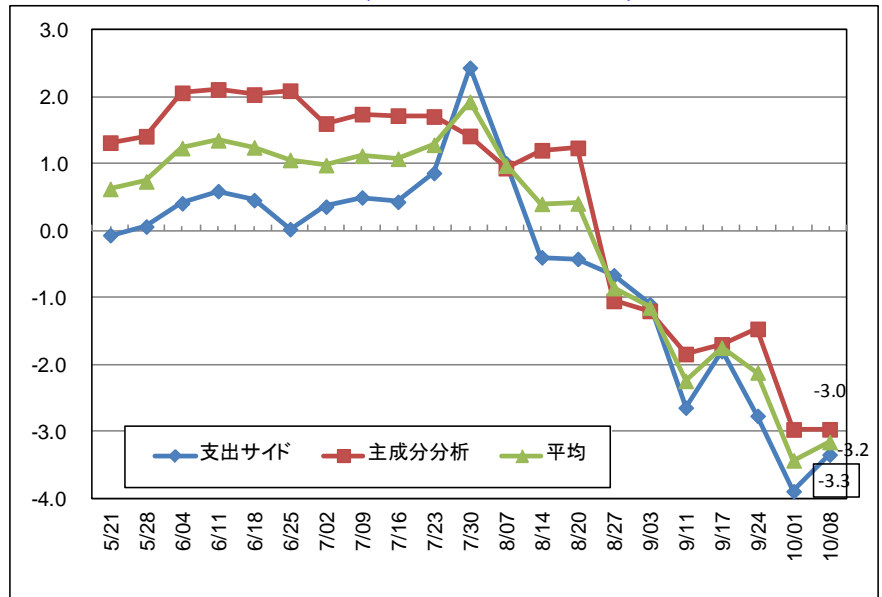
内容に関するお問い合わせは下記まで
e-mail:inada-y@apir.or.jp

日本経済(週次)予測(2012年10月8日)

ポイント

- ▶今週(10/8)の CQM 予測では、9 月の財政資金対民間収支、8 月の毎月勤労統計を更新。これらのデータは、公的企業在庫品増減及び雇用者報酬の予測値に影響を及ぼす。
- ▶今週の CQM(支出サイド)は、7-9 月期の実質 GDP 成長率を、内需と純輸出がともに縮小するため前期比年率-3.3%と予測。先週から小幅の上方修正となった。
- ▶日銀 9 月短観によると、大企業製造業の業況判断指数は-3 と、前回調査から 2 ポイント低下し、3 期ぶりの悪化。一方、大企業非製造業は+8 となり、前回調査から横ばい。海外経済の減速から輸出企業の景況感の悪化が目立っている。
- ▶9 月調査の回答は基準日 11 日にまで 7 割の企業が実施。したがって、9 月中旬から激化した反日デモの影響はあまり反映されていないようである。China Risk の本格的な影響は次回 12 月短観に反映され、景況感は大いに悪化する可能性が高い。

CQM 予測の動態：実質 GDP 成長率
2012Q3 (%、前期比年率換算)



<CQM と 9 月短観の景気の見方は一致だが、China Risk は短観には反映されず>

今週(10/8)の CQM 予測では、9 月の乗用車新車販売台数、財政資金対民間収支、8 月の毎月勤労統計、景気動向指数が更新された。これらのデータは、公的企業在庫品増減及び雇用者報酬の予測値に影響を及ぼす。

新たな月次指標を更新した今週の CQM(支出サイド)は、7-9 月期の実質 GDP 成長率を、内需と純輸出がともに縮小するため前期比年率-3.3%と予測。先週の予測値(-3.9%)からは小幅の上方修正となったのは、実質公的企業在庫品増減の予測値が上方修正されたためである。一方、主成分分析モデルによる予測値も同-3.0%となり、7-9 月期はマイナス成長の可能性が極めて高い。7-9 月期の経済を悪化の方向とみる(CQM 予測)のは 9 月短観の見方と整合的である。

10 月 1 日に日銀 9 月短観が発表された。注目される大企業製造業の景況感(業況判断指数)は-3 と、6 月調査から 2 ポイント低下し、3 期ぶりの悪化となった。一方、大企業非製造業の景況感+8 となり、前回調査から横ばいとなった。海外経済の減速から輸出企業の景況感の悪化が目立つ一方で、内需関連企業の景況感底堅かったといえよう。業種別に景況感の変化(9 月調査の業況判断から 6 月調査における先行き判断との乖離)をみると、全 28 業種のうち、10 の業種で景況感の下振れがみられた。特に、鉄鋼(-24 ポイント)、生産用機械(-19 ポイント)、金属製品(-14 ポイント)、電気機械(-9 ポイント)で景況感の下振れが大きかった。

9 月短観の企業からの回答期間は 8 月 28 日~9 月 28 日であるが、回答基準日の 11 日にまでには 7 割の企業が回答している。したがって、9 月中旬から激化した反日デモの影響はあまり反映されていないようである。China Risk の本格的な影響は次回 12 月短観に反映され、景況感は大いに悪化する可能性が高い。

- ・本レポートは執筆者が情報提供を目的として作成したものであり、当研究所の見解を示すものではありません。
- ・当研究所は、本レポートの正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートの無断転載を禁じます。
- ・お問い合わせ先：一般財団法人アジア太平洋研究所 contact@apir.or.jp 06-6441-0550